

新旧融合・共創で、常に進化する街、
「SDGs先進区」の実現を目指す

此花区将来ビジョン2027 (案) (2024年度-2027年度)



此花区マスコットキャラクター
このはちゃん

此花区役所

令和6年7月17日(水) 時点案

もくじ

- 1 はじめに
- 2 此花区の現状と課題
- 3 めざす方向性
- 4 目標設定

1-1 はじめに

○此花区将来ビジョンとは

地域の皆様との対話やご意見などを基に、区長が此花区の基礎自治行政を総合的に推進していく上での中期的な理念として、区のめざすべき将来像と、その実現に向けた施策展開の方向性などをとりまとめ、区民の皆さまに明らかにするものです。

この「此花区将来ビジョン2027」では、令和6年度（2024年度）から令和9年度2027年度）までを計画期間として、区のめざす将来像「新旧融合・共創で、常に進化する街、「SDGs先進区」の実現に向けた、施策ごとの方向性や目標を示しています。

今後、このビジョンに沿って、区民・地域団体・企業などの皆様とともに取り組んでまいります。

○計画期間

此花区将来ビジョン2027は、区長任期（4年）との整合性の観点から令和6年度（2024年度）から令和9年度（2027年度）までの4年間を計画期間といたします。

○運営方針との関係について

運営方針は、将来ビジョンの年度ごとのアクションプランとして、毎年度策定します。
そのため、今後、運営方針は順次、改訂してまいります。

1-2 はじめに（つづき）

○市と区の関係について（市政運営の基本方針より要約）

大阪市では、市民・区民のみなさまに身近なところで自律的な基礎自治行政を行うため、区長に対し権限と財源の移譲を行い、区の特性を活かしたまちづくりを進めています。市民・区民のみなさまのニーズにきめ細かく応えられるよう、市民にもっとも身近な区政については、ニア・イズ・ベターを徹底し、区長の責任と権限のもと、地域の実情に即した特色ある施策を展開しています。

○官民連携の必要性について（新・市政改革プランより要約・一部改変）

今後、さらなる少子高齢化や生産年齢人口の減少などに伴い、より効果的・効率的な行財政運営が求められます。また、こうした状況においても最適な公共サービスを効果的・効率的に提供する取組を進め、住民満足度の向上を図っていく必要があります。

また、区民や地域のみなさまのニーズがますます多様化していくなかで公共サービスの提供を全て行政機関が担っていくのではなく、地域や民間のみなさまの活力を活かした事業手法の発想が求められます。

此花区では、官民連携の発想をさらに前に推し進め、企業にとってCSRという観点だけでなく、企業にとっては新たな事業チャンスという観点を含めて、アイデア段階から協議し、実行に結び付けていく、「新旧融合・共創」の推進によるSDGs促進を目指します。

2 此花区の現状と課題

此花区は2025年、大阪・関西万博が区内で開催されるとともに、区制100周年を迎えます。万博の目的のひとつは「SDGs達成への貢献」です。

また、此花区は近年、人口は約6.5万人（※1）と横ばいで推移しているが、年齢別人口をみると50歳では約1,100人、20歳では約650人、0歳では約400人（※2）となっており、現状のままでは将来、著しい人口減少となり、空き家の増加、小学校の縮小（統合）、飲食店をはじめとした商店の採算悪化など、好ましくない影響が予想されます。

そこで此花区は区民のみならず民間企業などとの対話を通じて、それぞれが保有する知識やノウハウを活用して、此花区に新たな価値を共に創る活動を促進し、「住むなら此花区!」「SDGs先進区」といわれる街を目標に、人口減少に歯止めをかけることが必要です。

そのための主なテーマは、新たな魅力づくり（リゾート、アート等）、健康、環境とし、区民のみならず一人ひとりがSDGsを推進していくことで、万博機運盛り上げにもつなげてまいります。

（※1） 出典：大阪市民局 「住民基本台帳人口・外国人人口」 令和4～6年、各年3月末時点
（※2） 出典：大阪市民局 「住民基本台帳人口・外国人人口」 令和6年3月末時点

3-1 めざす方向性（長期ビジョン）

- “2050年”を見据えた長期的な考え方（長期ビジョン）

「此花で良い」ではなく「此花が良い」と、“選択”される街
ウェルビーイングな街 KONOHANA

概要

イメージ①「にぎわい」

- ・区内最大のターミナルである西九条駅から区内中心部への誘客を図る。
- ・関西No1のアミューズメント・アウトドア・スポーツの玄関口として西九条駅エリアの街の充実を図る。

イメージ②「うるおい」

- ・区内のエリアごとに高層タワーマンションから町家まで、自らのライフスタイルで選択し、高いQOL（生活の質）を実現できる街を目指す。
- ・商店街から高感度な店舗までさまざまな業態があり、生活に潤いのある街を目指す。

イメージ③「やすらぎ」

- ・区内に身近に芸術やスポーツ等にふれることができ、住み慣れた地域とともに生きともに暮らすことができる街を目指す。
- ・年齢や障がいや国籍にかかわらず、共に助け合い安心安全に暮らすことができる優しい街を目指す。

○ウェルビーイングについて

ウェルビーイングとは、心も身体も社会的にも「満たされた状態」、すなわち実感としての幸せ、心の豊かさなどを表す言葉で、世界保健機関（WHO）憲章における「健康」の定義で登場する表現です。

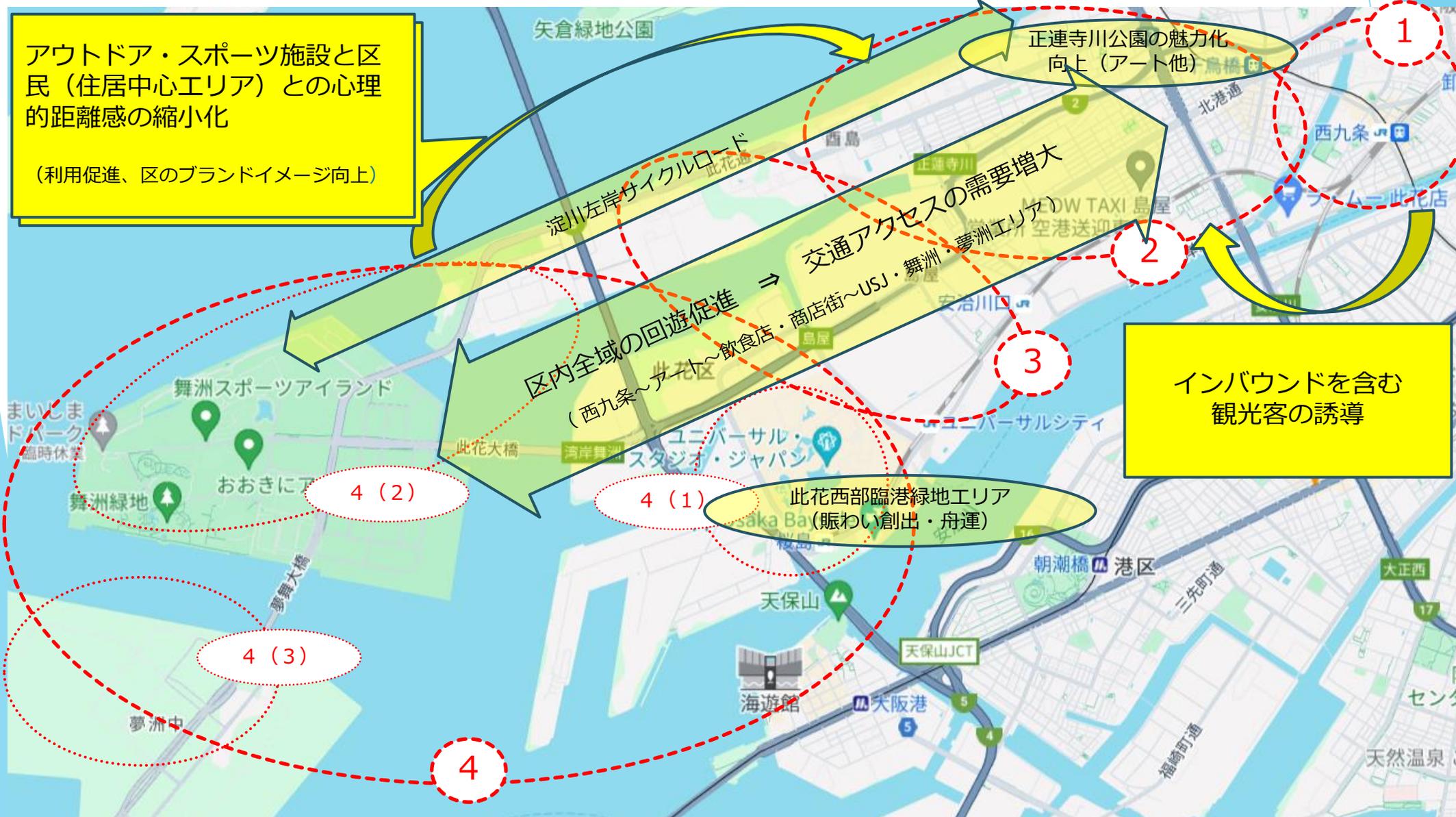
（原文）“Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity.”

（公益社団法人日本WHO協会による和訳）健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることをいいます。

3-2 めざす方向性 (エリア戦略)

○ 長期ビジョンのもとでの此花区将来ビジョン2027にかかるエリア戦略 (イメージ)

アウトドア・スポーツ施設と区民 (住居中心エリア) との心理的距離感の縮小化
(利用促進、区のブランドイメージ向上)



①西九条駅周辺
エリア
関西No1リゾートエリ
アへの玄関口としての
街の充実

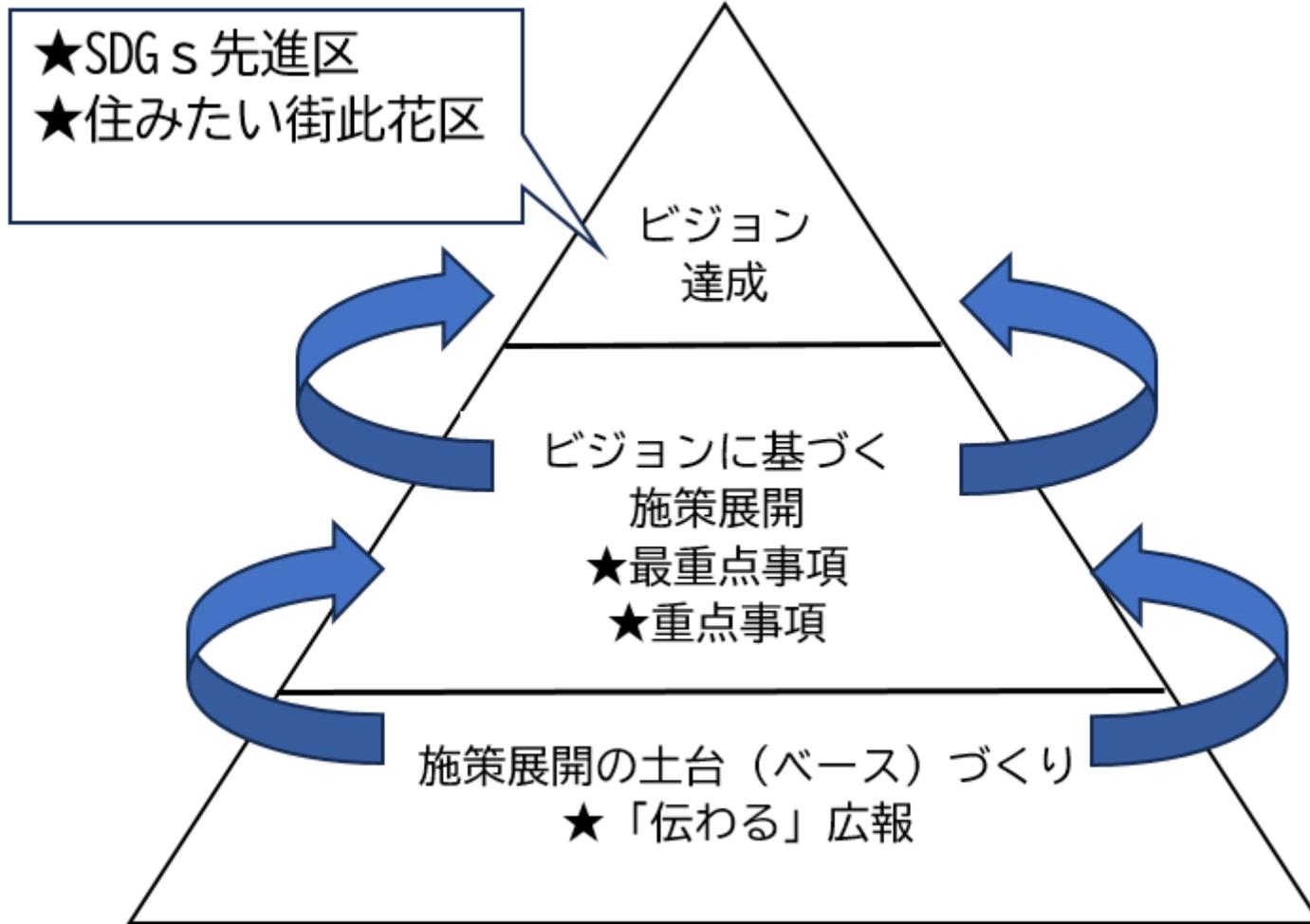
②住居中心エリア
町家から高層マンショ
ンまで潤いのある街

③工業中心エリア

④湾岸エリア
(1) USJエリア
(2) 舞洲・常吉エリア
エリア全体と
しての情報発信
(3) 夢洲エリア

3-3 めざす方向性（体系）

○課題・ビジョンに基づいた方向性の体系（イメージ）



「住むなら此花区！」「SDGs 先進区」を目指していくために、

- ★新たな魅力づくり
- ★健康
- ★環境

を最重点事項と設定し、官民共創の推進などによるSDGsの促進を目指してまいります。

また、重点事項を含めてすべての施策展開の土台（ベース）なるものが「伝わる」広報であり、区役所職員が一丸となって取り組んでまいります。

4-1 目標設定にあたって

= EBPMの実践 =

現在、此花区の運営方針は、課題は示されているものの、具体的行動（戦略・戦術）が明確になっていないものが多くなっています。

さらに目標指標が具体的行動とどれだけの相関関係があるか明らかでなく、根拠データも存在しないことから、PDCAを回転させることは課題があります。

そこで本ビジョンでは、各項目のKPIを設定し、PDCAを回転させるとともに、今後はEBPMに取り組んでまいります。また、同時に区民のみなさまへの事業進捗度を可視化にも努めてまいります。

○PDCAとは

計画（Plan）、実施（Do）、点検（Check）及び改善（Action）を繰り返すマネジメントサイクル（PDCAサイクル）であり、成果を意識した区政運営の実現に向けて、施策や事業を適切かつ着実に推進するための基本的な考え方です。

○KPIとは

重要業績評価指標（Key Performance Indicator）であり、組織の目標を達成するための重要な業績評価の指標を意味し、達成状況を定点観測することで、目標達成に向けた組織のパフォーマンスの動向を把握できるようになります。

○EBPMとは

EBPM（Evidence Based Policy Making）は「証拠に基づく政策立案」であり、「政策の企画立案をその場限りのエピソードに頼るのではなく、政策目的を明確化したうえで政策効果の測定に重要な関連を持つ情報やデータ（エビデンス）に基づくものとする」と（平成30年度内閣府取組方針）とされています。

4-2 目標設定

4-2-1 施策展開の土台づくり

○施策展開の土台づくり 「伝わる」広報

4-2-2 最重点目標

○最重点目標 (1) 新たな魅力づくり

○最重点目標 (2) 健康

○最重点目標 (3) 環境

4-2-3 重点目標

○重点目標 (1) まちづくり

○重点目標 (2) 教育・こども

○重点目標 (3) 防犯・防災

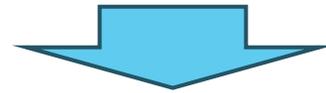
○重点目標 (4) 子育て・福祉

各目標の効果測定指標 (KPI)にかかるとなる数値は構想中につき別途設定予定です。

4-2-1 施策展開の土台づくり 「伝わる」広報

【 目指す状態 】

「伝える」のではなく「伝わる」広報へと転換し、ターゲットごとに効果的な媒体を活用しながら、あらゆる世代の区民が容易に必要な情報を収集できる状態。



【 具体的行動 】

様々な媒体での情報を充実させるとともに、特に対象年齢層が広いLINEを利用し、発信においては、「3秒で情報の概要がわかる」ことを徹底し、検索においては、情報を階層別に整理するとともに、広報誌の情報を蓄積することで情報の充実を図る。また、LINEアンケートにより、区民からの事業評価を迅速に得ることでPDCAを回転させるとともに、EBPMにも取り組む。



【 効果測定指標（KPI） 】

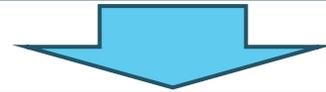
LINEのお友達数



4-2-2 最重点目標（1） 新たな魅力づくり

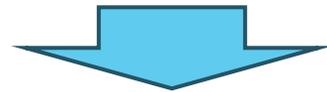
【 目指す状態 】

此花区内の魅力ある観光スポットや施設との官民共創等による認知度・集客力向上を図ることで、観光資源を通じた此花区の魅力の向上と人の賑わいが創出されている状態



【 具体的行動 】

此花区の魅力向上、人の賑わい創出にかかる課題について、課題設定から共に取り組む企業等との連携を進め、官民共創、民民共創により課題解決を実現する組織体を立ち上げ、それぞれが保有する知識やノウハウを活用し、相互送客を図ることでまちの魅力や人の賑わいの好循環を促進するとともに、万博を契機とした新たな魅力創出と既存の魅力との相乗効果を生み出すことにより此花区に新たな価値を創出する。



【 効果測定指標（KPI） 】

官民共創、民民共創による新たな共創事業の組織数

11 住み続けられる
まちづくりを



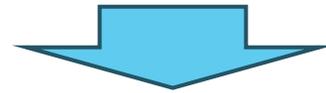
17 パートナーシップで
目標を達成しよう



4-2-2 最重点目標（2） 健康

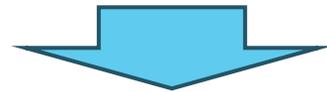
【 目指す状態 】

区民の健康意識が向上し、自らの健康の維持・増進に取り組んでいる状態



【 具体的行動 】

- ・健康に対する意識を高めるため、幅広いテーマ（生活習慣病予防、食育、健康体操(百歳)、感染症など）について、あらゆる機会に健康づくり活動(健康教育、健康相談、イベント等)を行う。
- ・生活習慣病の予防等に役立つ各種検診、健康診査の受診啓発を行う。



【 効果測定指標（KPI） 】

- ① 健康づくりに取り組んでいると回答する区民の割合
- ② 健康づくり活動参加者の満足度割合（参加者アンケート）

3 すべての人に健康と福祉を



10 人や国の不平等をなくそう



11 住み続けられるまちづくりを



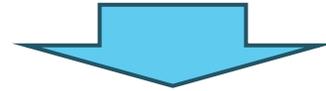
17 パートナシップで目標を達成しよう



4-2-2 最重点目標（3） 環境

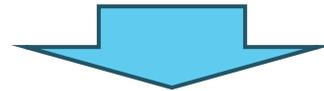
【 目指す状態 】

○区民全員について、「持続可能な社会実現」の理念が理解されており、理念実現に向けた自主的な身近な行動が実践されている状態



【 具体的行動 】

- ①区内交通機関の駅において、周辺のたばこ販売事業者・企業・地域団体等との協力関係を構築することで、駅付近での路上喫煙・ポイ捨て防止対策を推進する。
- ②毎月の地域一斉清掃と並行して、ごみ拾いアプリ「ピリカ」を活用し「此花区グループ」「此花区イベント」に個人参加する区民を増加・定着させる。
- ③人権啓発の一環としてSDGs 課題の啓発普及資料を作成し、市立小・中学校を通じて配付し、区内児童・生徒の「持続可能な社会実現」意識を向上する。



【 効果測定指標（KPI） 】

- ① 当初設置予定3カ所以外の新たな路上喫煙所の設置
- ② 「ピリカ」の「此花区グループ」「イベント」に個人参加する区民数
- ③ 全国学力・学習状況調査で「地域や社会をよくするために何かしたい」と回答する児童・生徒の割合が市平均以上である学校数

11 住み続けられるまちづくりを



12 つくる責任
つかう責任



13 気候変動に
具体的な対策を



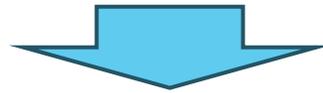
17 パートナースHIPで
目標を達成しよう



4-2-3 重点目標（1） まちづくり

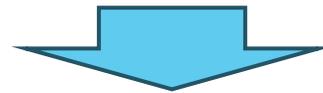
【 目指す状態 】

令和9年度までに此花区の町会加入率が向上している



【 具体的行動 】

- 地域コミュニティの維持・活性化を目的として「大阪市町会加入促進戦略」（以下、戦略）が平成6年3月に策定されました。戦略に基づき、「此花区町会加入促進アクションプラン」を策定します。
- 地域活動協議会の活性化を目指す目的から、同協議会の重要な構成団体の一つである、連合振興町会の活性化を図るため、人と人がつながるためのきっかけづくりや加入促進に取り組みます。



【 効果測定指標（KPI） 】

町会加入世帯の増加数

11 住み続けられる
まちづくりを



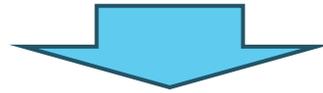
17 パートナシップで
目標を達成しよう



4-2-3 重点目標（2） 教育・こども

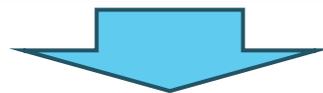
【 目指す状態 】

○区内の市立小・中学校の全児童・生徒が自己肯定感を向上することができ、自ら課題解決に取り組むことができる状態



【 具体的行動 】

- ①区内の市立小・中学校及び区役所（教育関係担当）の担当教員・職員を対象に、「外国につながる子ども支援策」研修や情報共有を行い、新規編入学した「外国につながる子ども」の学校生活への適応を支援する。
- ②区内の市立小・中学校に対し、協力事業者を紹介することでキャリア教育を支援するとともに、人権啓発事業の活用により「（仮）自己肯定感向上に向けた講師派遣事業」を新設し活用促進する。
- ③区教育行政連絡会で把握した区内小・中学校ニーズに基づき、プログラミング教育や課題解決型学習にかかる学校教育支援策に取り組む。



【 効果測定指標（KPI） 】

全国学力・学習状況調査で

- ①「外国の人と友達になったり外国をもっと知りたい」と回答する児童・生徒の割合が市平均以上である学校数
- ②「自分にはよいところがある」と回答する児童・生徒の割合が市平均以上である学校数
- ③「友達との話し合いを通じて、自分の考えを深めたり広げたりする」と回答する児童・生徒の割合が市平均以上である学校数

4 質の高い教育を
みんなに



17 パートナーシップで
目標を達成しよう



4-2-3 重点目標（3） 防犯・防災

【 目指す状態 】

- ① 日頃から防犯意識が高く、事故や犯罪の未然防止に取り組むことで、区内が安心かつ安全である状態
- ② 災害が発生又は発生する恐れがある場合に、命を守る一次避難を区民が意識できる状態
- ③ 災害が発生又は発生する恐れがある場合に、優先度の高い避難行動要支援者（※）に対し、避難が可能となる環境が整えられている状態

※当区では「戸建て又はマンション等集合住宅の2階以下の者」かつ「単身で近隣に支援者がいない者」

【 具体的行動 】

- ① 日頃の青色防犯パトロールの実施や地域住民による自主防犯活動を支援するとともに、自転車事故及び特殊詐欺被害の減少に向けて、広報誌やHP等で周知・啓発を行い、警察等と共創した交通安全教室や防犯講座などで事故や犯罪の防止を図る。また、犯罪抑止の必要に応じて防犯カメラを設置する。
- ② 想定浸水深や津波到着時間等を区内の集客施設等に明示し、避難行動に繋げる。
- ③ 要支援者を対象に災害時の支援者選定を促し、支援者の選定が困難な方には、地域や事業者等に支援協力を依頼する。また、地域や事業者等を対象に広報誌やHP等で支援協力を周知し、併せて、個別避難計画完了の実績を積み上げていく。

【 結果指標 】

- ① 以前より安心安全を感じる区民の割合
- ②-1 津波発生時の避難先を決めている区民の割合
- ②-2 災害時に「いつ」「何をするか」を決めている区民の割合
- ③ 個別避難計画の完了実績

3 すべての人に健康と福祉を



11 住み続けられるまちづくりを



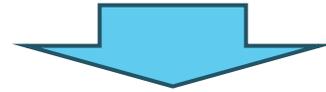
16 平和と公正をすべての人に



4-2-3 重点目標（4） 子育て・福祉

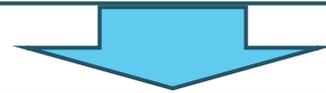
【 目指す状態 】

- ① 「気にかける」地域づくりが実現し、誰もが安心して生活できる状態～気にかける つながる 支えあう～
- ② すべての子どもが適切な支援のもと、虐待を受けることなく、いのちを輝かせ成長できている状態



【 具体的行動 】

- ① 区役所、区社会福祉協議会が協働で、各団体、地域への活動について周知・協力する体制を構築することで取り残しのない安心して暮らせる地域を形成する。
支援を必要とする対象者を掘り起こして適切な支援につなげるとともに、日々の見守りを通じて異変を早期に発見するため、見守りを行う個人（ボランティアの確保・育成）や団体（協力の要請、民間企業との共創）を増やし、誰もが安心して生活できるよう好循環を構築する。
- ② 虐待についての知識・理解の普及啓発を行うとともに、学校園や保育所、母子保健などの関係機関や専門職と連携し、支援が必要な児童とその保護者に対して適切な支援を実施する。



【 効果測定指標（KPI） 】

- ① このはな地域見守りタイによる見守り実施人数
- ② こども家庭センターのサポートプランの作成数

3 すべての人に
健康と福祉を



4 質の高い教育を
みんなに



11 住み続けられる
まちづくりを



16 平和と公正を
すべての人に



17 パートナーシップで
目標を達成しよう





此花区マスコットキャラクター
このはちゃん

此花区役所